

き ろく よう し き にゅう し かた 記録用紙の記入の仕方

ちょうさ けっか ひょう ひょう きろくようし きにゅう
調査した結果は、表-1、表-2の記録用紙に記入します。

かくきにゅうれい さんこう くだ
(各記入例を参考にして下さい)

いか たいせつ こうもく きにゅう し かた せつめい
以下に、大切な項目の記入の仕方を説明します。

ちょうさ ちてん かわ なまえ はし なまえ きにゅう
(1) 「調査地点」は、その川の名前と橋の名前などを記入します。

かわはば ちょうさ ばしょ なが はば めぶんりょう はか もくぞく きにゅう
(2) 「川幅」は、調査した場所の流の幅を目分量で測って(目測して)記入します。

せいぶつ さいしゆ ばしょ なが ちゅうしん うがん さがん か
(3) 「生物を採取した場所」は、「流れの中心」とか、「右岸」(あるいは左岸)と書きます。

うがん さがん かわ じょうりゅう かりゅう み みぎがわ ひだりがわ かわざし
※右岸(左岸)とは、川の上流から下流を見て右側(左側)の川岸のことです。

なが はや せいぶつ つかまえた場所の大体の流れの速さを、次のような3段階で
きにゅう
記入します。

なが はや だんかい め やす 流れの速さの段階と目安

だんかい 段階	なが はや めやす 流れの速さの目安
おそい	びょうかん いか 1秒間に30cm以下
ふつう	びょうかん くらい 1秒間に30~60cm位
はやい	びょうかん いじょう 1秒間に60cm以上

なが はや ただ かんたん そくてい ば あい やく なが ほそ
流れの速さを正しく簡単に測定したい場合には、約3mの長さの細いひもをつけたテ
ニスボールなどの浮きを用意し、時計の秒針を見ながら、ひものはしを持って、足元の
すいめんちか う お とし、ひもがピンと張って手応えを感じるようになるまでの時間
を計り、1秒当たりの流れの速さを求めます(図1参照)。

たと びょう あ なが はや もと ず さんしやう
例えば、3mのひもを使って15秒であれば、 $300(\text{cm}) \div 15(\text{秒}) = \text{約}20(\text{cm}/\text{秒})$ と
なるので、「おそい」と記入します。

図1



(5) 「川底の状態」は、たとえば、「頭大の石が多い」「こぶし大の石が多い」「小石と砂」「砂と泥」などと記入します。また、石の表面についているぬるぬるとしたものが多
いか少ないかなども分かれば記入します。

(6) 「水のごり、におい、その他」については、「透明」、「きれい」、「少しにごっている」
「大変にごっている」などと記入します。また、工場から排水などで色が付いていた
ら、その色についても記録しておきます。水のおいについては、とくに「し尿・
下水のようなにおい」、「せき油のようなにおい」、「土のにおい」などがしたら
記入します。そのほか、調査場所の近くで汚れた川や工場排水が入っているなど、
気付いたことを記録します。

(7) それぞれのグループで見つけた生物の数を、表-2の用紙に記入します。指標生物
の記入は、調査した場所ですませます。

(8) 「魚、水草、鳥、その他の生物」については、調査地点の近くで見つけた魚や鳥、
水草などについて気付いたことを記録します。